第１回継続講座１―１を４月１５日(土)13:30～15:30 に開催しました。参加者の皆さんよりお預かりしたリフレクションをまとめました。

会　場：愛知文教大学　協同研究室

テーマ：授業づくりの「土台」とは？

講　師：学び合う学び研究所　フェロー　　木村　芳博先生

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、自ら考えて動くようになる子どもたちをどう育てるかです。 子どもの発言や呟きを「どうやって引き出し、聴き取り、つなげるのか」について日頃から考え、授業において意識すると、子どもたちが自ら考えて動くようになり得ることを学びました。 また、「ダメ、できない」などの否定的な言葉を教室内で許すことなく、肯定的な言葉の投げかけである「公的話法」を教師側が積極的に使うことにより、授業や教室の雰囲気が大きく変わることも学びました。 小さなことの積み重ねと、小さなことの生徒からの摘み取りが授業づくりの視点において大切ですね。
今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、引き出す　繋げる　聴き取る　授業づくりの土台です。 お世話になりました。初任者、少経験者しか参加できないのか？と心配して申し込みました。いつもなるほどと言う学びがあり、とても感謝しています。 インプットしなければ、アウトプットできないと思っています。1 年間いろいろな講座があり、とても楽しみにしております。よろしくお願いします。
今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、「引き出す」「聴きとる」「つなげる」です。 新年度の忙しい時期だからかもしれないが、初任者のみなさんが参加できなかったことが残念でならない（ただし、大学生が 2 名参加してくれたことは素晴らしいと思った)。それぐらい、年度初めに学びたい内容であったと思う。 講師の木村先生が、「引き出す」「聴きとる」「つなげる」の 3 点に絞って授業づくりの土台を語られたことは、大変分かりやすく納得のいくものだった。この視点で授業ビデオを見てみると、教師が子どもの言葉に基づき授業をデザインしている様子が見えてくる。今回見せていただいたビデオに登場した２名の先生方は、どちらも「聴きとる」力が素晴らしかった。たった１度きりの授業だからこそ、子どもの言葉を丁寧に聴きとることの難しさと面白さがあると思う。そこに気づかせていた木村先生に改めて感謝したいと思う。ありがとうございました。
今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、教育や保育で語られてきたことを大切にすることです。 木村先生ありがとうございました。今回もたくさん学びました。新任の先生とは思えないほど教育の専門家としてしっかり育っている二人の先生による授業ビデオから学びました。 かつての「授業で育つ教師の会」のときと同じように参加者全員がつないで聴き合って学びました。木村先生から「たくさん浮かんでいる中で一つに絞って聴かせてください」と、

とってもすてきな指示がありました。 　参加者の皆さんのお話のおかげで、自分が描いたことやビデオからの学びがくっきりしてきました。 　また、皆さんの視点や捉えの違い、語りの深さや伝え方の巧みさに、自分の不完全さや未熟も痛感したセミナーでした。 　連続講座の次回は、新任や講師の先生方とともに学べるように、さらに工夫しようと思います。ありがとうございました。
今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、先生が生徒の間をつなぐことの大切さで、これは橋をつくることだと思いました。 　小学校２年生の授業と中学生２年生の授業を通して生徒に指導するときに３つポイント「引き出す」「聴き取る」「つなげる」をよく理解して、今後もそれを授業実習の中に行きたいです。
学び合う学びは、聴くことが大切だということ考えることができました。「しっかり聴こうね」という言葉で、何回も指導してきましたが、実は、自分自身が聴くことが苦手だと思います。人の話を聞かずに、自分が話をする内容を考えていたり、興味がないなと思ったら、別のことを考えていたりします。上の空という言葉がぴったりです。 　聴くということは、とても高度な技術であり、そのことに対して方法の指導や、特別な訓練をすることが必要かもしれません。でも、そんな指導をせずに、「しっかり聴こうね」という言葉だけだったと思います。 　学び合う学びに到達するには、そういった様々な技術の必要な学習の方法かもしれません。それぞれの方法について、どのように指導していたたら良いかを考える必要があると思います。ありがとうございました。
今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、子どもの学びを支える教師力は、子どもを見取る力が重要であると改めて学びました。 　本日、木村先生が整理された三つの視点「引き出す」「聴き取る」「つなげる」は、いずれも子どもの姿が見えていないとできないことです。冒頭で紹介された実践研究者三名の言葉は、何十年も以前から教室で実践されていたことです。決して新しくなく、古臭くもない。時代が変わっても教師が持つべき基本対応であり、子どもたちへ丁寧に指導することだと確認できました。 　大学生にとって、学ぶことが難しい教師力は、子どもの姿をどう見るかです。その学びは教室でしか学ぶことができません。だから、教師は現場で学び続けることで力量を身につけていきます。本日は、教育実習前の学生が二人参加してくれました。授業ビデオを通してではありますが、現職教員と共に学び合う機会に恵まれたことは幸せなことです。ありがとうございました。